

この街にこの人あり

杉並の歴史ある美しい建物を評価し、守っていこう！ “杉並たてもの応援団”の20年

杉並には大正末期から昭和初期に建てられた和洋折衷様式や和風住宅で質の高い建築が残っています。今回、これらの建物を調査し保存やリノベーションを所有者と協力して進めている「杉並たてもの応援団」の代表、桑田仁さんにお話を伺いました。



桑田 仁さん

■結成のきっかけとメンバー構成

1999年に杉並区在住の建築家3人が、当時失われていく住宅が多くなるのを見て、現状の実態調査と保存に向けての支援活動を始めた。現在代表をなさっている桑田さんは、2002年に杉並区に來住、2003年から活動に参加されたとのこと。ご自身、都市計画・まちづくりの専門家である。コアメンバーは10数名で、実務や研究で建築に関わるメンバーが約半分、他のメンバーは建築愛好家という構成である。



杉並区内に今も残る洋館

■活動内容

杉並は、大正12（1923）年の関東大震災後、郊外住宅地として急速に発展してきたが、その当時から80年近く経って失われていく建築が多くなるなかで、建物の悉皆調査を行うことから始めたとのこと。幸い、建築史の稲葉和也先生による先行調査（1986～1987年）がなされており、それをベースに同じ建物の追跡調査を2004年に行った。その結果、価値ありと認められていた約650件の建物が18年を経て、3分の1にまで減少していることが判明した。

もうひとつ重要な活動として、オーナーとの意見交換を行い、保存に前向きな場合には家屋や家具の修復、また新しい活用方法に向けてリノベーションの手伝いを行っている。特に建築物として価値の高いものについて登録文化財（事例として「一樺庵」（松庵2丁目）など）への申請の支援などがある。同時に行政・公的保存機関等への提案、希望者を募っての建物見学会やまち歩き、講演会、写真展、そして他地域の団体との協力も行っている。

2017年1月には『杉並たてもの応援団が選ぶ まちかどの名建築』を出版した。1冊税込1,000円で購入可能、また区立図書館のどこでも読むことができる。



名建築案内の小冊子



応援団が主催したまち歩きの様子

■「応援団」からのメッセージ

ホームページなどを使ってより親しみやすい情報発信を行っていきたいとのこと。歴史的に残った美しい建物は街並みを形成するうえで、所有者のみならず周辺住民にとっても貴重な財産となることから、「是非多くの方々はその理解と活動への支援、参加をお願いしたい」とのメッセージをいただいた。

杉並たてもの応援団事務局：大嶋アトリエ内
Email: suginamitamemono@gmail.com
Homepage: <http://suginamitamemono.sakura.ne.jp/>
Facebook: <https://www.facebook.com/suginamitamemono/>